

## 特定非営利活動法人 Global Bridge Network

### 令和3年(2021年)度 事業活動報告書

#### 1. 活動期間:2021年4月1日～2022年3月31日

#### 2. 事業活動の要旨

本年度も新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、日本国内では緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が発令され、またウガンダでも昨年度に続きロックダウンが継続したため活動が制限されたが、感染拡大が落ち着いた段階でウガンダにて2つのプロジェクトを開始することができた。

過去3年に渡り Global Bridge Network (GBN) が実施してきた女子学生の教育環境改善事業を発展させ、JICA 草の根協力支援型として「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」を11月に開始した。加えて、新規の環境保全事業として大成建設自然・歴史環境基金の助成を受け、ムベンデ県・ルサリラ地区にて「環境教育と廃棄物の収集・リサイクルを通じた環境美化事業」を開始した。

また、日本国内における国際交流事業としてオンラインイベント～SDGs よこはま CITY 冬～に参加し、「生理が原因で学校に行けなくなる女の子達のお話」をテーマにセミナーを実施した。同事業に関心をもつ高校生からの連絡を受け、活動についてのインタビューに協力し、高校生が実施している活動へのアドバイス等を行った。

2021年度も当団体のHP、Facebook、ブログ、動画等を活用し、情報発信・活動報告を行い、当団体の国際支援活動の普及・啓発と、異文化理解の促進、他団体とのネットワークの構築等を目指した。2021年度よりJICA主催のICTを活用したNGO能力強化研修として、専門家にアドバイスを受けながらWord Pressを使ったウェブサイト(当団体のHP)の構築作業を開始した。また、JICA横浜主催のNGO向けの研修シリーズに積極的に参加した。

2022年度は今年度の活動の継続・発展、当団体のHPの改訂、およびインターン受け入れなどを行い、またウガンダへ渡航し現地視察も予定している。

#### 3. 実施した事業内容

主な事業は「国際支援事業」、「国際交流促進事業」の2本柱であり、以下にその活動内容の詳細を述べる。

##### ① 国際支援事業

##### 1) 「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」(JICA 草の根協力支援型)

- 実施期間:2021年11月1日～2024年4月30日(2.5年間)
- 実施場所:ウガンダ共和国(ムベンデ県、ワキソ県、ブタンバラ県)
- 受益者:4,310名(生徒3,000名、教員60名、地域住民1,200名、Happy-Padプロモーションセンターでのトレーニング受講者50名)(2.5年間)
- 事業内容:

事業地では女子生徒が貧困のため生理用品を所持できず、生理期間中に通学出来なくなるという問題が発生している。洗面所やトイレなどの学校施設の不備、また生理の衛生管理に関する知識不足、または古着等の不衛生な代替品を使用することで感染症になったり、衣服に漏れて男子生徒にからかわれてしまうことを機に退学してしまうなど、女子生徒の教育環境には様々な問題がある。

本事業では、学校にて、まずは教員による生理の問題に対処する能力向上を促進しながら、布ナプキン作成トレーニングの拡充、生理に対する正しい知識、衛生・性教育の普及、ジェンダー平等意識の啓発などの活動を実施する、学校の女子トイレ、洗面所、更衣室、水タンクなどの学校設備を整備することで、対象校の女子生徒が生理期間中でも安心して通学できるようになり、基礎教育を完了できる環境づくりを目指す。また、地域に向けて女子の教育支援への意識改革に向けた啓発、生理用布ナプキンの生産とトレーニングを担うプロモーションセンターを開設し、さらに布ナプキンが普及するように尽力する。加えて、政府機関へ生理の問題に取り組み、カリキュラムとして導入するように働きかけを行う。

2021年度は、ベースライン調査の実施・報告書の作成、学校設備の調査・修繕作業、事業紹介およびHappy-Pad プロモーションセンターの広報のためのリーフレットの作成、月経時の衛生管理・性教育、ジェンダー平等の教材(冊子)の作成、教員トレーニングのマニュアル作成、Happy-Pad プロモーションセンターの開設準備等を実施した。加えて、コミュニティへの啓発のためにラジオトークショーを3県にて定期的実施した。

ベースライン調査を通じて、月経が女子生徒の欠席理由になることを認識していない教員がいることが改めて確認された。多くの場合、女子生徒は恥ずかしさなどから月経を理由に欠席することを明言しないが、医療関係者からの証明書が提出できないため欠席したことに対して教員が女子生徒に罰を与えたケースがあった。そのため、教員対象のトレーニングを通じた意識改革の必要性を改めて認識した。



各県で事業開始（キックオフ）の会合を実施



生徒に配布される冊子



ドアが取り付けられたトイレ



ブタンバラ県でのラジオトークショー

対象地域である3県すべての地方政府から、本事業が女子生徒の出席率向上につながる活動だと歓迎され、活動への全面的な協力が得られた。例えば、ブタンバラ県では、準郡の女性議員がボランティアでラジオ出演を申し出るなど事業が政府に快く受け入れられ、支持を得ている。

ラジオトークショーを通じては、地域の広い聴衆に対して本事業を紹介する機会となった。様々なリスナーから反響があり、本事業の対象校以外の学校へ事業の拡大の希望や、再利用可能な布ナプキンの作成方法を学べるようトレーニングを要望する声が届いている。

事業によりこれまで起きた主な変化としては、対象校の運営者・教員、政府関係者が「月経が原因で学校に行けなくなる女子学生の問題」に気付き、具体的に取り組む契機となったことである。事業開始前に地方政府へ表敬訪問をした際に、各地域の対象校の選抜に協力してもらったことを通じて、地方政府も参加するという意識に繋がったと思われる。ブタンバラ県ではこの事業が契機となり、女性調査官を募集・雇用する必要があると認識された。

(活動報告：<http://globalbridgenetwork-jp.blogspot.com/2020/03/blog-post.html>)

## 2) 「環境教育と廃棄物の収集・リサイクルを通じた環境美化事業」(大成建設自然・歴史環境基金の助成)

- 実施期間: 2021年11月1日～2022年12月31日
- 実施場所: ウガンダ共和国(ムベンデ県・ルサリラ地区)
- 受益者: 地域住民 1,000世帯、約 5,000名
- 事業内容:

ウガンダのルサリラ地区は、国境(コンゴ民主共和国)に向かう交通の要所として急速に発展している人口5,000人ほどの地域で、発展と同時に人口が増加し、毎日少なくとも0.5-1t程度の廃棄物が出ている。住民は無秩序にゴミを投棄するため、その廃棄物による土壌汚染、人間・家畜が利用する水源も汚染され、さらに汚染は人々の健康被害にまでおよび、事態は悪化している。



水辺に散乱するゴミ

このような状況になる根本原因は、人々の知識が不足していることで、廃棄物の投棄から生じる健康被害、それによる環境汚染等の問題、また分別方法などについて、住民の知識が欠如していることである。加えて行政による廃棄物の回収や、リサイクルの制度が存在していないことが大きな要因である。



投棄されたゴミは住民により燃やされている

事業の目的は、住民が適切な廃棄物の処理と環境改善についての知識を習得し、有機廃棄物の堆肥化、リサイクルできる廃棄物の分別・利活用が実施され、さらにその販売益を通して廃棄物処理が継続されることにより、対象地区の環境が改善され、持続的に美化されることである。

2021年度は、コミュニティラジオのシステムを活用し、環境教育トークを通じて地区全体に廃棄物の問題、解決方法などの情報を流した。また、廃棄物の投棄や分別を指導するための環境保全グループを組織した。そして、政府関係者と会合を持ち、ごみの投棄を罰する条例の制定に向けた取り組みを実施した。(条例は2022年5月に設立する予定である)

(活動報告:<http://globalbridgenetwork-jp.blogspot.com/2022/01/blog-post.html>)

### 3) マイクロクレジット(貧困層向けの無担保で小額の融資)を通じたウガンダ・ムベンデ県の女性や若者の経済的自立支援事業

- 実施期間:2021年4月1日~2022年3月31日
- 実施場所:ウガンダ共和国(ムベンデ県)
- 受益者:若者12名(女子6名、男子6名)

2020年度にウガンダ・ムベンデ県の女性や若者の経済的自立支援として、マイクロクレジット(貧困層向けの無担保で小額の融資)事業を開始した。2021年度は、若者を対象にトレーニングを実施し、ドーナツとパンの生産、マーケティングと販路開拓を実施した。工場内の熱不足によってドーナツの発酵が思うように進まなかったため、十分な熱を保てるよう工場を補修した。加えてディーゼルエンジンの発電機を設置し、不安定な電力供給の影響を受けずに生産が継続できるように工夫した。



工場内の売店に陳列された商品



工場の管理者が出荷前に点検作業を行っている

コロナ禍でも食料供給のため生産活動を継続し、新たな顧客の開拓に力を入れたため、パンやドーナツへの需要が増加した時期もあった。しかし、コロナウイルス第二波によるロックダウンにより、主な市場である学校の閉鎖が継続し、顧客確保に大きく影響を受けた。また、原材料(小麦粉、食用油、砂糖等)の価格高騰、燃料費の高騰で、採算が合わず、パンビジネスは苦境に立たされた。そのため、小規模融資の供与を実施する予定であったが、実施できなかった。

(活動報告:<http://globalbridgenetwork-jp.blogspot.com/2021/01/blog-post.html>)

## ② 国際交流促進事業

### 1) ウェブサイトの改訂作業

2021年度よりJICA主催の「ICTを活用したNGO能力強化研修」として支援を受け、当団体のHPとしてWord pressを利用した新しいウェブサイトの作成作業を開始した。毎月約1回の頻度で

専門家の指導を受けながら作業を進めており、2022 年度も本作業は継続し、新 HP に移行する予定である。

## 2) 情報発信

ウェブサイト、Facebook、ブログ、寄附サイト Syncable、YouTube 等を活用し、広報活動を行った。当団体の活動報告を原則日本語・英語の両方で掲載、当団体の活動を知っていただき、イベントへの参加や活動への協力の呼びかけを通して、支援者、会員を増やすことを目指した。会員については引き続き募集しているが、なかなか入会までに至っていない。

## 3) 学生の探究学習への協力

名城大学附属高等学校の国際クラスで「課題探究」を行っている2-3年生数名より、GBNの「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業(ウガンダ共和国)」事業に関する質問・相談を受け、Zoomのミーティングを開催した。同校の生徒は、アフリカの女子学生が生理が原因で学校を欠席、中退している現状をどうにかしたいと、作成した布ナプキンをケニアの団体に寄贈をしたが、現地NPOや裨益者とのコミュニケーションが容易にとれないことや、実践活動が現地のニーズに即しているかを知りたい、よりニーズに即した支援を今後行いたいとの意向を受けて、GBNの活動地域や、パートナー団体を通じた支援の可能性について相談を受け、意見交換を行った。2022年度も引き続き、意見交換を続けながら具体的な活動につなげていく。なお、同校を卒業した大学生2名が2022年度よりGBNでインターンを行うこととなった。

## 4) 国際協力・多文化共生をテーマにしたイベント

### オンラインイベント～SDGsよこはまCITY冬

～

#### 「生理が原因で学校に行けなくなる女の子達のお話(ウガンダ)」セミナー

- 実施日: 2022年2月20日(日)10:30-11:30  
と15:30-16:30の2回
- 実施方法: Zoomによるオンライン
- 参加者: 計42名(1回目20名、2回目22名)オンラインイベント～SDGsよこはまCITY冬～の参加団体として、「生理が原因で学校に行けなくなる女の子達のお話(ウガンダ)」をテーマにオンラインセミナーを実施した。セミナーでは、GBNのミッションや実施している主な事業、ウガンダ共和国の概要について冒頭で説明した後、2015年に当団体代表がウガンダにて生理の問題を知り、法人設立



**農村部の日常生活**

家事のお手伝い | 学校の様子

**生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業 (ウガンダ共和国)**

**目的**  
学校に通う女子生徒が、生理が原因による欠席・退学することなく基礎教育を完了し、女性の社会的な立場、経済的な状況が改善されること。

**プロジェクト目標**  
対象校の女子生徒が生理期間中でも安心して通学できるようになる。

**アプローチ**

- 学校施設の設備の改善、そのための資金調達。
- 学校に通う女子生徒、親族の保健衛生に関する知識の向上。
- 産婦科医、保健師による女子教育と保健師のサポートに対する意識の向上。
- 生活費やアブザンが豊富に、肉類が豊富に輸入される。
- 教育費の削減の発生を抑制、ジェンダー平等の理念を学校の教育活動として導入することを実現。

**活動**

- 学校施設の改善
- 保健師による女子教育と保健師のサポートに対する意識の向上
- 生活費やアブザンが豊富に、肉類が豊富に輸入される
- 教育費の削減の発生を抑制、ジェンダー平等の理念を学校の教育活動として導入することを実現

**活動内容**

- 学校施設の改善
- 保健師による女子教育と保健師のサポートに対する意識の向上
- 生活費やアブザンが豊富に、肉類が豊富に輸入される
- 教育費の削減の発生を抑制、ジェンダー平等の理念を学校の教育活動として導入することを実現

**活動内容**

- 学校施設の改善
- 保健師による女子教育と保健師のサポートに対する意識の向上
- 生活費やアブザンが豊富に、肉類が豊富に輸入される
- 教育費の削減の発生を抑制、ジェンダー平等の理念を学校の教育活動として導入することを実現

をした経緯、2016-2019年にLush Japan様の助成を受けて実施した「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」、そして2021年に開始した上述のJICAの草の根事業について説明した。

本セミナーの実施を通じて、これまでGBNの活動をご存知なかった方に知っていただく機会となり、そしてGBNの活動を数年前からご存知の皆様には、活動の進展、事業の拡大についてご報告する貴重な機会となった。高校生から、国際協力を精通している方まで様々な方にご参加いただくことができ、また、当日参加できなかった方からセミナーの録画共有を依頼されるなど、関心の高いピックであることがうかがえた。

(イベント報告の詳細: <https://globalbridgenetwork-jp.blogspot.com/2022/03/blog-post.html>)

法人名: NPO法人Global Bridge Network

### 貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	906,688		
流動資産合計		906,688	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			906,688
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		841,955	
当期正味財産増減額		64,733	
正味財産合計			906,688
負債及び正味財産合計			906,688